

# 海岸浸食



↑ 2月12日  
← 2月26日  
わずか2週間で、崩落が大きくなります。

「これから現地視察をし、今週末の大潮にむけて警戒体制を考えている」と市長から全協で報告がありました。

## 2007年度北茨城予算案

		前年度比
一般会計	143億3170万円	1.3%
特別会計 (国保、介護など)	137億7311万円	+6.0%
企業会計 (水道、病院など)	53億6475万円	6.8%
合計	334億5487万円	+0.6%

2007年度の北茨城市の予算案が2月28日に内示されました。一般会計、特別会計、企業会計の総額は、それぞれ表のとおりです。一般会計の歳入では、市税が約62億6千万円。前年度に比べてプラス13.7%、7億5000万円を超える大幅増となりました。市民へのさまざまな増税、および国から地方への税源移譲によるものです。

定率減税の廃止による市民の負担増は約8500万円です。ただし、増える税収分以上に国からの交付税などが減額されています。また団塊世代の集中退職に

### 市予算案

# 一般会計は143億円

マイナス1.3%

### 市民への増税と税源移譲で市税は大幅増



日本共産党  
北茨城市委員会  
電話050-1030

毎週日曜日発行

インターネットでも  
ご覧いただけます。

<http://www.jcp-ktib.com/>

ご相談は  
お気軽に

市議会議員  
福田 明  
43-0468

市議会議員  
鈴木やす子  
42-2462

一般質問の形式 「一問一答」を検討

市議会全員協議会で、本会議での一般質問に「一問一答」形式の導入を検討することが確認されました。

現在は、通告した議員が通告内容にそって質問をし、すべてに執行部が答えてから、改めて質問者は2回目の質問に立つという形になっています。

「一問一答」では、その名の通り、一つの質問に一つの答と対応していくため、緊張感が生まれ活性化につながる事が期待されています。

対応するため、退職手当債を9500万円発行するとしています。

歳出では目立った新規事業は見られませんが、新市民病院の建設関連調査委託費や、かつての日立電鉄車庫の跡地を市民ふれあいセンターの駐車場にするための土地取得費が計上されています。貧困と格差の広がりが指摘されているなか、逆に生活保護費は2600

万円削減されています。

日本共産党市議団は「市税の大幅な増収は、市民所得の向上からではなく、政府の定率減税廃止など庶民への増税によるものである。市民の生活実態は逆に所得が低下しているともいわれ、今回の増税は、この間の介護保険の増税や医療費の引上げ等々と相まって耐えがたいものである。市民の暮らしを守る予算を求めて力をつくしたい」と述べています。

予算等を議論する3月議会は7、23日の日程で開会されます。

記事訂正 全員協議会の内容を伝え

前号の記事で、「議会招集権が議長にも与えられる」と書きましたが、正しくは「議会招集の請求権が議長にも与えられる」でした。訂正します。



2月24日、市民ふれあいセンターで、社会福祉協議会主催「地域福祉を考える集い」が開催され、250人が参加しました。テーマは「地域は大きなひとつの家族、私にできること」。地域でできること、地域とのコミュニケーションをどうつづけていくのか、協会の職員さんみずからが脚本・演出・主演した寸劇を見て考え合いました。

## 地域福祉を考える集い



その劇をはさみ、アドバイザー・長谷川幸介茨大助教授の進行で、民生委員・井口氏、ボランティア・久保田氏、社協職員・菅原氏のゲストトークがおこなわれました。寸劇での風景が子どものお話から、今は団地の中で孤独死がいくつもあるといふきびしい現実まで報告されました。

行政と一人暮らし家庭とのつなぎ役として、地域のサロンや配食サービスのよきな制度を利用してお互いが関わり合ってみるなど、一人ひとりがちょっとお節介をやってみるこの大切さがこもこも語られました。困っている時に自分から、「助けて」といえる勇気が必要なのでは、という言葉が印象的でした。

一人暮らしになつてしまった呑んべえの頑固なおじちゃん、回覧板を持つてきたお節介なおばちゃんとの茨城弁そのままのセリフが、「あるよね、こんなやりとり」と共感を呼び、大きな笑いをさそいました。